

公開講演会記録

シルクロードの成長著しい親日国ウズベキスタンの現状と日本および中国との関係

日本ウズベキスタン協会会長 加藤文彦



はじめに

ウズベキスタンは古くからのシルクロードのオアシスの国。交易でいろいろな人が交わり、文化・言葉そして顔も様々な国。1991年ソ連崩壊に伴い独立して35年、治安がよく、人口が増え経済も著しく発展している魅力的な親日国です。私は、元駐ウズベキスタン特命全権大使として、現在は日本ウズベキスタン協会会長として、ウズベキスタンの紹介、ロシアや中国との関係、そして日本との友好協力関係強

化・発展に向けてお話します。

中央アジア5か国は、「カトウタキ」と覚えてください。カザフスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、キルギスと、時計の針と反対に並んでいます(図1)。

中央アジアは、中国の西のはずれ天山脈を越したところにあります。中央アジアの先はカスピ海です。

1. ウズベキスタンはどんな国？

七つポイントを挙げます。

(1) 人口が多く、若い

ウズベキスタンは中央アジアの真ん

中にあり、他の4か国と比し農耕定住民族だったこともあり、人口は5か国中で最大の約3700万人(2025年)。しかも30歳以下の若者が55%以上を占める若い国。毎年80〜100万人赤ちゃんが生まれ人口が増えています(日本は人口が約3倍なのに、赤ちゃんは2025年には約67万人しか生まれていません)。

(2) 緑豊かな地上

古くからのシルクロードのオアシスの国。中央アジアの中でも、東の天山脈から大きな川が流れてきて、地下



図1 中央アジアの地図



写真1 ウズベキスタンの象徴的な世界遺産である青の都サマルカンドのレジスタン広場のモスクとメドレッセ

国民性は概して温厚・まじめ・他人に親切。背景には、

国民性

(5) 温厚・親切な

えます。

は safety zone と言

中で、ウズベキスタ

ンはじめ中央アジア

などが起こっている

な地域で戦争・内乱

などは起こっている

どは起こっています

ん。世界のいろいろな

も、この20年以上、

おり、治安について

エフ大統領とも安定した政治を行って

初代カリモフ大統領・今のミルジョ

(4) 安定した政治・治安

です。

はまだ完全に探査ができていない状況

はなくなっています。鉱物資源について

輸出の重要物資でしたが、国内経済発

展による内需拡大で、今は輸出余力が

出品は金です。ガス・原油はこれまで

水も豊かで、灌漑も進んでいるため、国土の約40%は緑。野菜や果物がとても豊富です。

(3) 豊かな地下資源
金、ウラン、天然ガス、原油、鉱物資源などがとても豊富です。
ウズベクの第1の輸



写真2 アトラス（色鮮やかななかり模様のシルク織物）を着たウズベキスタンの女性

「マッハラ」という昔ながらの近所付き合い共同体が存続していることがありますが（日本では、都会では少なくなっていました）、地方にはまだあるかも）。

「マッハラ」では、冠婚葬祭を一緒に行い、また、長老が高齢者手当や若者失業手当を配布するなど行政機関の末端の役割も果たしています。さらに警察とも連携して、よそ者がマッハラに入ってくるやとすぐに通報する仕組みです。

マッハラは慣例で、家庭の主婦は朝早く家の周りを掃除、主人は車を綺麗に洗車、などが行われ、街にゴミが少なくなきれいななど、日本人とフィリピンが合う感じ。「マッハラ」はウズベ

ク全国に約9000あります（写真1、写真2）。

（6）親日的

戦後の日本人抑留者（約25000人）の業績を高く評価しています。抑留者は、例えばナボイ劇場というオペラハウスの建設に貢献し、その後起こった大地震でも壊れなかったことから、日本人の勤勉さ、技術の高さの象徴として広く知られています。そして、日本語学習熱が高く、多くの大学で、常に1500人以上が日本語を勉強しています。ちなみに、日本を含む友好国の短期（30日以内）滞在ビザもは免除されています。

（7）日本の技術への強い憧れ

日本企業・製品の高い技術に強い憧れ、尊敬の気持ちをもっています。

2. 基礎的情報

上記七つのポイントに加え、基礎的な情報をいくつか挙げます。

○国土・気候：日本の1・2倍の45万^キ平方^キ。世界に2か国しかない二重内陸国（Double Landlocked Country）。海がとても遠く、気候は夏は40度以上、冬はマイナス10度以下という大陸性気候。年間晴れが300日、雨は少ないが、緑が国土の40%というのは、東の天山山脈からの大きな川、地下水のおかげです。

○言葉：1991年独立までソ連の一部でしたので、ロシア語を話す人が多かったのですが、1995年の憲法改正以降ウズベク語を公用語にして、また十数年前から、小学校1年生から英語を教えています。したがって特に地方の若者はロシア語を話せなくなりつつあり、逆に英語でビジネスもできる

ようになりつつあります。

○宗教：イスラム教が主ですが、憲法は、宗教の自由を保障しています。政府も、南のアフガニスタン・タリバン政権と国境を接していることもあり、イスラム教を信じろとは決して言いません。

○主要都市：古くからシルクロードのオアシスの国なので、美しい青の都サマルカンドはじめブハラ、ヒバ、シャフリサーブス、ザラフシャンと五つの世界文化遺産の街があります。

ウズベキスタンにとって、「観光国家」も一つの目標です。今は、首都タシケントから高速鉄道（スペイン製）でサマルカンド・ブハラまで行けるようになりました。またタシケントから東のフェルガナには、近年、中国が天山山脈の支脈にトンネルを掘って作った鉄道が通りました。

ちなみに、首都タシケントは高層ビルが立ち並び、大きなショッピングモール、高層マンション、ミニ・ディズニールランドと呼ばれるエンタメ施設などもあり、人口310万人（2025年）を

超す近代的大都会になっています。

○料理など：

・ウズベクの料理は、旧ソ連諸国の中でもとても美味、と定評。ただし、しょうゆ味のものはなく、多くは油味です。

・プロフ：肉・野菜に香辛料加えて油で炊き込んだピラフ風炊き込みごはん。

・ラグマン：手打ちの麺をトマトベースの油スープで食べる麺料理。他にもサムサ、シャシリクなどがあります。

・お茶の文化：チャイハナ（喫茶店）のタブチャン（縁台）に座ってお茶を飲む集まりは地域コミュニティの重要な役割です。

・アルコール：飲酒をさける文化のあるイスラム教が主な国ですが、19世紀後半からロシア帝国60年、1924年からソ連の支配下で約70年、独立する1991年までロシア人の支配下にあった歴史があるため、例えば祖父も父もロシア人にウォッカを飲まされてきたので、アルコールに違和感がない人も普通にいます。街には多くの酒屋さんがあります。

○工芸品：絛模様のシルクのアトラス（写真2）、刺繍を施した布スザニ。それから木工細工とか陶器も有名なものが多くあります。

3. 政治・外交

1991年ソ連崩壊に伴う独立のときから大統領を続けていた初代カリモフ大統領が2016年に亡くなって、ミルジョエフ大統領が誕生しました。良好な治安を維持して安定した政治を行い、そして急速・大胆に経済自由化、規制緩和、民営化などの改革を進めています。

ミルジョエフ大統領の改革で、特筆すべきは2点です。①二重為替レート廃止と外貨交換・送金の自由化。②日本を含む友好国の短期（30日以内）滞在ビザの免除。

ちょっとピンとこないかもしれませんが、初代カリモフ大統領時代は、政治・経済とも旧ソ連時代を引き継いで石橋をたたいて渡る感じでした。①対外経済関係も、外貨がなくなったら大

変ということ、国内通用の為替レートと外貨交換の為替レートが異なり、そもそも外貨交換・送金をほとんど許さない状況でした。自由化したら、とんでもない輸入インフレになりかねないというのが当時の大蔵省の言い分でした。ミルジョエフ大統領は、それを一気に自由化して、普通の国にしました。生活に最低限必要な食料品などの価格高騰には補助金で対応して乗り切りました。②短期ビザについても、友好国に対して、レシプロなど気にせず、一方的に免除してくれました。外交で特筆すべきは2点です。

①中央アジア5か国「カトウタキ」の内部関係の抜本的改善を主導。ソ連崩壊後、初代カリモフ大統領の時代は仲が悪かった。理由の一つは、国境問題。旧ソ連時代の区画に依じて5か国は独立したわけですが、民族的にはタジキスタン人、キルギス人など国境と必ずしも合致しないで住んでいます。理由の二つ目は、水の問題。タジキスタン・キルギスは、天山山脈の中にあり、冬、寒い。資源に乏しいの

表1 貿易額 単位：億ドル 出所：ウズベキスタン財務省

輸出額	270（金75、サービス72、綿などの繊維、銅などの非鉄、食料）		
輸入額	390（機械・輸送機器134、鉄等の工業製品61、医薬などの化学品47）		
相手国	輸出入額	ウズベキスタン 輸出額	ウズベキスタン 輸入額
①中 国	125	21	104
②ロシア	116	37	80
③カザフ	43	15	28
④トルコ	30	12	18
⑤韓 国	20	—	20
ド イ ツ	10	—	10
アメリカ	8	3	5
フランス	8	8	—
日 本	3	0.1	3

表2 対外債務残高 出所：ウズベキスタン財務省

824	（2025年9月末現在）	単位：億ドル
内訳	（2025年1月末現在）	
世銀	76.4	
アジア開銀	74.2	
中国（開銀・輸銀）	37.7	
日本（JICA・JBIC）	28.9	
フランス	9.8	
イスラム開銀	9.4	
韓国	7.4	

一人当たりGDPは3100ドル（2024年）。まだベトナムより低い数字ですが、実質経済成長率は近年ずっと5%以上の著しい経済発展を遂げています。人口も増え経済も成長しています。

4. 経済

で、電力は水力発電。冬、発電のため水を流す。下流の農耕国ウズベキスタンにとっては、冬に水を流されても、農業にプラスにならない。春・夏に多くの水を流して欲しい。

この二つの大きな問題について、ミルジョエフ大統領が主導して、中央アジア内部の協議・合意を進め、今は、概ね解決しています。また、道路規制も大幅に緩和され、航空便も各国間を飛ぶようになった。加えて、国境沿いに、タックスフリーのショッピングモールをいくつも作って、国籍にこだわらず交流できるようになっています。

②ロシア、アジア（韓国・中国・日本など）、アメリカ、ヨーロッパ、中東などとバランスをとった全方位外交の推進。政治面そして経済面ともに言えることです（詳細は後述）。

貿易（2024年）は輸出品目の第1位は金、それから綿花、銅などの非鉄、農産品などの食料と続いています。相手国は、表1のとおり。

やはり中国とロシアが、巨大な相手国。そしてカザフスタン、トルコ、韓国と続きます。ドイツ、アメリカ、フランスも顔を出しています。日本はその下なのです。

ウズベキスタンに行つて残念に思うのは、電化製品はほぼ韓国製、自動車はトヨタ車がほとんど走っておらず、ほぼアメリカ大宇車↑韓国GM車（元は韓国大宇自動車）ということなのです。

対外債務残高は824億ドル（2025年9月時点）。外貨準備が412億ドル（2024年）あるので、債務返済に支障はありません。内訳（2025年1月時点）は、表2のとおり。

この内訳でわかることは、バランスをとった外交を行っていることに加えて、債務についてもバランスを十分考慮しており、途上国でよく言われる中国の債務のワナに陥らない対応をしていることです。

5. ロシアとの関係

・貿易

ウズベキスタンにとって、貿易相手国としてロシアは中国に1位を抜かれたが、2位116億ドルという圧倒的巨人。ロシアは寒い国なので、今ウクライナ戦争の最中も、食料品は結構な量をウズベキスタンから輸入しています。

・投融資

ロシアからウズベキスタンへの投融資は大きくありません。

・人的交流

人的交流は、独立後国内産業が育っていないウズベキスタンから言葉が通じるロシアへ100万人以上の出稼ぎ労働者が行っていました。今やウクライナ戦争の影響で、出稼ぎが大きく減っていると言われています。

・政治

ロシアは、旧ソ連諸国と、軍事や経済で、協力条約を結ぶことを強く希望しています。カザフスタンやベラルーシは、ロシアと国境を接していること

もありロシアの意向に沿って、次の条約に加盟済みです。

―集団安全保障条約。ロシア、カザフスタン、タジキスタン、キルギス、ベラルーシ、アルメニア。

―ユーラシア経済連合。ロシア、カザフスタン、キルギス、ベラルーシ、アルメニアなどで構成されています。

ウズベキスタンはロシアと国境を接しておらず、バランスをとった外交という観点もあり、軍事面・経済面では一線を画して条約に加盟していません。

ただウズベキスタンは、別の観点で、南にアフガニスタン・タリバン政権があるので、有事の際にはロシアに支援してもらうという2国間の限定的な軍事防衛協定を結んでいます。

・教育 ウズベキスタンでは、近年ロシア語ではなく公用語のウズベク語教育が一般的ですが、加えて、小学1年から英語の学習を開始しています。

6. 中国との関係

・貿易・投資

中国は輸出入で第1位最大の相手国。125億ドル（2024年）。中国からは機械・輸送用機器、工業製品、化学品などを輸入。

貿易・投資の最近の傾向は、グリーン関係（太陽光発電、風力発電そしてEVなど）や重要鉱物資源の関係にも力点が置かれています。例えば、BYDが工場を建ててEVバス生産を開始しています。

・政治

ウズベキスタンは近年、中国の「一带一路」との連携を強化しています。

2024年1月 ミルジョエフ大統領が中国訪問。

2025年6月 中央アジア+中国の首脳会議（於カザフスタン）

2025年9月 ミルジョエフ大統領が中国訪問。

これら極めて頻繁な首脳外交もあり、上述のグリーン関係、鉱物資源関係などの協力も進んでいます。

・上海協力機構（SCO）

上海協力機構は2001年、中国とロシアが中心となって西側先進国に対

抗する国際組織として設立されました。

ウズベキスタンはじめトルクメニスタンを除く中央アジア4か国、インド・イラン・ベラルーシ・パキスタンなどが加盟。パートナー国として、中近東のサウジアラビア・エジプト・クウェート・カタール・バーレーン・トルコなどが名を連ねています。

政治・安全保障・経済・貿易など幅広い分野で協力する強力な機構であり、2025年は25周年。ウズベキスタンは前向き積極的に参加しています。

7. 日本とウズベキスタンの友好協力関係強化・発展に向けて

冒頭、七つのポイントの中で、（6）親日的、（7）日本の技術への強い憧れ、を挙げました。

（1）親日的の背景

①日本人抑留者とナボイ劇場：第二次世界大戦が終わった1945年、スターリンの命令でシベリアから約25000人の日本人抑留者がウズベキスタンに移されました。そして、

数年間、様々な建設土木作業に従事、812人が亡くなりました。亡くなった方々はウズベキスタン13か所の日本人墓地に埋葬されています。その墓地をウズベクの人たちが今もとてもきれいに管理してくれています。

抑留者が建設に従事した建築物の一つにタシケントのナボイ劇場があります。約5000人の抑留者が、モスクワのポリショイ劇場に並ぶ1400人近く収容の壮麗な劇場を完成させました。その後1966年、タシケントで大地震が起こった際、街のほとんどの建物は（鉄骨造りではなく）石造りですから崩れ落ちた中で、ナボイ劇場はびくともしませんでした。

もともと「日本人捕虜が建設に貢献」と記載されていたのを、初代カリモフ大統領が「日本国民が建設に貢献」と書き換えさせました。ナボイ劇場に関するこれらのエピソードは、とても有名で多くのウズベク国民であれば誰もが知っています。

②考古学の加藤九祚先生：紀元後1世紀から3世紀にかけてインドでは、

表3 ウズベキスタンへのODA 供与

単位：百万ドル

	1位	2位	3位	4位
2020年	日本313	フランス231	韓国58	ドイツ34
2021年	日本389	韓国43	アメリカ40	ドイツ26
2022年	フランス215	日本100	アメリカ41	韓国40

(OECD/DAC；中国はメンバーでないので、数字不明)

カニシカ王のクシャーナ朝でガンダーラ文化が栄え、領土はインドから今のウズベキスタン南部まで広がっていました。そこに仏教遺跡が残っています。加藤先生は、シベリア抑留者の一人ですが、65歳を過ぎてから、約30年以上にわたるウズベキスタン南部スルハンダリア州の仏教遺跡を掘り、研究を続け、ウズベクの考古学者を育てたということは大変有名です。加えて、加藤九祚先生がウズベクそしてウズベク人を愛し、ウズベキスタンの学術のため貢献したことが、小学5年生の教科書に載って紹介されています。ウズベキスタン人の親日的な感情の背景の一つです。

③ 日本語を勉強する学生たち：独立直前にウズベクに来て国立タシケント東洋

学大学で日本語を教え始めた菅野^{すがの}_{れいこ}先生が長年にわたり日本語教育を続け、その門下生が他の大学でも教えて、今や八つの国立そして多くの私立の大学で、日本語学科ができて、常に400人以上が日本語を勉強しています。また、JICAとウズベク政府共同設立の「UJC (Uzbekistan-Japan



写真3 「中央アジア+日本」首脳会議。左端がミルジョーエフ・ウズベキスタン大統領（2025年12月）

(Center) でもビジネス講座とともに学生たちに日本語を教える講座をもっています。学生たちの多くは、卒業後日本の企業で働きたいと言っていますが、まだ日本企業が少ない状況です。

④ 日本政府のODA供与：ウズベクへのODAの供与について、日本政府



写真4 ミルジョーエフ大統領が羽田空港に到着した際、出迎えた筆者と握手

は毎年1位か上位に入っています。日本政府は概ね毎年3億ドルくらいODA供与してきました。前述の日本の民間企業の貿易額3億ドルと同じくらいです。

② 日本の民間企業が近年関心持ち始めた主な理由

次の諸点を認識したことが主な理由です。

① 安定した政治・良好な治安：世界のあちこちで戦争・紛争が起こる中、ウズベクはじめ中央アジアは安定した政治、良好な治安の地域。

② 需要増大地域：人口増加、経済成長が著しい需要増大地域。

③ 重要鉱物資源に恵まれた地域（金・ウラン・レアメタルなど）。

人的交流も：在日ウズベク人は留学生約3500人含め約8000人に増大。日本からウズベクを訪れた日本人観光客・ビジネスマンは、2025年、過去最高の約32000人にのぼりました。

③ 「中央アジア+日本」初めての首脳会議（2025年12月）／98の協力

覚書（MOU）を交わす

初めての首脳会議で、高市早苗総理は、ポイントについて次のように発言しました。

— 中央アジアは人口が増え、急速な経済成長を遂げて、国際的なプレゼンスを高めている。

— 豊富な資源を持ち、地政学的にも重要な位置を占め、21世紀の安定と繁栄を支える地域。

— 日本の技術と結びついて、互恵的な関係を構築できる「戦略的パートナー」。

— 今後5年間で3兆円規模の民間プロジェクトを実施していく。

関連で行われたビジネスフォーラム・ラウンドテーブルで、ミルジョエフ大統領や高市早苗総理の立ち合いの下、官民合わせて、中央アジア5か国との間で158件の協力覚書（MOU）が結ばれ公表されました（写真3、写真4）。うちウズベキスタンとのMOUが98件を占めています。その中には、大型の投資プロジェクトがいくつかあります。

○ 双日（10億ドル？）

— 病床800の総合病院を建設・運営（サマルカンド）

— 100万瓩の風力などの発電・売電事業を起業・運営。

— タシケント新国際空港を建設・運営、サウジアラビアのビジン・インベストとともに。

（注）この新国際空港プロジェクトは、公表されたWOUの中にはありません、が別途報道されています。中央アジアの大規模ハブ空港を目指すものです。

○ 住商・サウジACWA・中部電力・四国電力（14・4億ドル？）

— 太陽光発電・蓄電・売電事業の建設・運営（於サマルカンド近郊）

○ 豊通・I-IJ・NTTcom・NEC（数億ドル）。

— 次世代通信基盤の実証事業

これらの大型プロジェクトの特徴は、従来の輸出・EPC（Engineering Procurement Construction）に比べてまらない投資・事業運営までやっているプロジェクトとなっていることです。

す。嬉しいことに、それ以外でも、多くの投資・IT・技術供与・教育・医療・映画などのMOUがあります。例えば、

○㈱ノーリツイス

名古屋のオフィスチェア製造企業ですが、ウズベキスタンで工場を建てて国際規格のオフィスチェアを生産。

○増井㈱

大阪の衣料輸入などの企業ですが、既にウズベク綿花を輸入して今治タオルの材料としても使ってもらっています。今回のMOUは、ウズベク農業全体のDX化、効率化、高品質化のための技術供与。

○アーチ㈱・㈱グラフィニカ、TV東京㈱

ITを駆使したアニメ制作、デジタル人材育成、アニメコンテンツの展開。

○㈱デジタルナレッジ

既に2020年、日本とウズベク両国の正式大学であるJDU (Japan Digital University) を設立・開校済み。800人余の学生が、ITと日本語を学び、卒業後日本企業への就職を

目指している。今回のMOUは、JDUタシケント本校に加えブハラ支部を設立。

○筑波大学

ウズベクに正式な筑波大学の分校を設立。

○北原医療グループ、輝光グローバル㈱

日本式総合病院を建設・運営、日本式リハビリテーションセンターを建設・運営(於タシケント)。

○㈱平成プロジェクト

日本人抑留者を描く日・ウズベク共同制作映画「ナボイの桜(仮称)」の制作。今回の98件のMOUを見ても、今後いろいろな分野で協力の裾野が広がっていくと実感します。

(4) 友好協力関係強化・発展に向けて

課題として、①ウズベキスタンには海がないので貿易ロジスティクスが難しい。②今なおビジネスの相手は政府・国営企業が多い。③意思決定がトップダウン。④許認可・手続きはかなり縮小・簡素化されてきたがなお存

在。などが挙げられます。しかし、中国をまたぐ地政学的にも重要で魅力的な親日国ウズベキスタンとの友好協力関係は、これら課題を乗り越えて、間違いなく強化・発展していきます。個人的希望としては、中国と敵対・競合するだけでなく、一緒に協力して、日本・中国・中央アジアの一大経済圏を築いていくことができれば、と思っています。

(2026年1月29日・公開講演会)

筆者略歴(かとう・ふみひこ)

1953年生まれ、東京大学(経済)卒業、通産省(現・経済産業省)で貿易保険・石油流通分野などの課長職、中小企業庁次長を経て、2013年から2016年まで、駐ウズベキスタン特命全権大使。在任中、両国の経済関係拡大に注力。また当時の麻生太郎財務大臣(日ウズベキスタン友好議員連盟会長)、安倍晋三総理大臣らが多くの日本企業の社長らとともにウズベキスタンを訪問するのを支えた。